



サワフタギ（沢蓋木）

<ハイノキ科・ハイノキ属>

北海道から九州の温帯に自生する小高木～低木。落葉樹林内や林縁、草原に生え、枝いっぱい葉を茂らせ沢を塞ぐほど繁茂することから、この名がある。葉は互生に付き、葉身4～8㎝の倒卵形で最大幅は先寄り。葉の両面とも毛がありざらつく。花は初夏に沢山の白い小花を付け、秋には美しい鮮やかな瑠璃色の実を結ぶ。別名ルリミノウシコロシ、ニシゴリ。材から得た灰は、紫染めの媒染ばいせんとして利用される。・・・▼
裏山の林縁で見つけた晩夏のサワフタギ。葉を虫に喰われながら、若い緑の実みは、瑠璃色に染まるのを待っていた。▼酷暑が続く中、道端のアキノノゲシは、背を伸ばしてクリーム色の花を咲かせ、元気なイネ科の仲間たちは、風にそよぎ涼を誘う。移ろう季節はいつの時も忍び寄り、新鮮さに満ち満ちる。

～佐伯区湯来町 2020・8月～